# オーライ！ニッポン　ライフスタイル賞

## NPO白神山地を守る会・NPO白神自然学校一ツ森校両代表理事　永井（ながい）　雄人（かつと）さん（65才）（青森県青森市（あおもりし））

### ■受賞者と農山漁村との関わり

【二地域居住】（15年）
仙台市と青森県鰺ヶ沢町を行き来する二地域居住から、現在は青森市から鰺ヶ沢町に通う二地域居住を実践。
【地域での実践活動】（15年）

### ■写真の説明

・（写真上）ボランテイアの学生と地元のお母さんと永井さん。
・（写真左下）地区の婦人部と、学生との交流会
・（写真右下）韓国全土の学生を受け入れて自然学校で写真

### ■受賞の内容

永井さんは、現役時代から山が好きで白神山地を初め青森県内の山を登山していた。白神山地が世界遺産になった当時、鰺ケ沢町には、ミニ白神(現白神の森遊山道)という里の近場のブナ林を整備した登山コースがあり、そのガイドの養成講座講師を一年間努めた後、町長から廃校活用の依頼を受けた。

グリーン･ツーリズムの里として白神自然学校を提案し、廃校となった小学校を自然体験や白神の歴史を伝える「白神自然学校一ツ森校」として開校。

自然学校は、一ツ森地区の人達との連携が不可欠であり、町会長と話し合い、集会へも参加。さらに一緒に事業展開する地区員が出ると地元のシルバーと若者のガイドの養成研修会を実施した。

また、津軽森林管理署と「遊々の森」を締結し、林業体験の受け入れ基地の整備をはじめ、過去に伐採された森への植林を進める為、種苗免許を青森県に申請。ブナの種・ミズナラ・イタヤカエデ等の広葉樹の種を山から拾い、苗木を生産して植林するための休耕地の活用やコンテナ苗作りなどを（独）森林総合研究所と共同研究を7年間続けて技術習得に成功した。

また、首都圏から訪れる子供たちの受入れ先として農家民宿（現在9件）を育成するとともに、廃校舎の一部を農家レストラン及び宿泊施設として改装し、利用するなど、同校を中心とした都市農村交流を実践している。グリーンシーズンは、ほぼ自然学校に泊まり込みの二極生活が続いている。

首都圏から白神山地に来た人々は、ブナ林で癒しを求め、開口一番「空気が美味しい。ブナの香りが良い」と言う。続いて、お米が美味しい、地元のお母さん達の漬物が美味しいと言う。農家の女性達のもっと働きたいという願いを叶えるために、3年間かけて漬物づくりに取組み「杣人のまんま本」という伝統料理と山菜料理とレシピをまとめた冊子を発行、農家レストランでも提供している。同じく、3年前からは、白神山地から採取されるオオバクロモジから精油を抽出し、白神アロマとして販売を始め、地域の活性化を望む人達と、地域資源を活用して、この地でできる事から対価を得る活動を一緒に実施している。

白神自然学校は、自然保護活動や学校のスタッフとして参加する学生が海外からボランティアで来ている。韓国政府との連携により韓国農大生の受け入れや、お米農家の人達や大学の教師達の受け入れ、地元の農家民宿への宿泊、町内会との交流とすっかり国際的になった。特産品の白神アロマは、星野リゾートにも販売が実現し大手百貨店とも商談が進んでいる。雪が降る半年間のオフシーズンは、来訪者も仕事も極端に少なくなるが、地域資源を活かした産業を作ることで、定住・移住も含めて1年間安定した暮らしができる。今年の冬からは、インターチェンジ等の街路樹として植えられている樹木「ドイツトウヒ」の剪定で落とされた枝葉を精油用として蒸留する事業を冬期間行うことに挑戦する。夢は、「白神山地の豊かな水」を生かしたスキームをどう作るか。成熟した生活環境と雇用が結びつき、暮らして良し、訪れて良しの理想郷をどう創っていくのかが夢であり、目標である。

ガイド養成講座の講師になったことをきっかけに、自然学校という拠点を得てからの地道な基盤づくりと計画的な事業展開を15年にわたり続け、彼が推奨する「ホリデー田舎暮らし」は、ワーク・ライフ・バランスが重視される時代に適合していると高く評価された。